



専門員
コラム

今井の

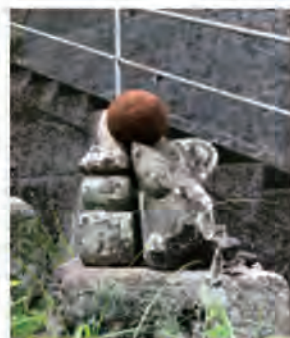
石の上にも三千万年



ノジュール様

三崎浦の西の端、国道のすぐ脇に、大正9年の豪雨災害を機につくった堤防の完成記念碑が建っています。とても立派な石碑ですが、今回のお話の主役はそのすぐ横にある少し不思議な石造物です。花崗岩でできた台座の上に五輪塔の一部分や壊れた狛犬が載せられており、その頂点には茶色いまん丸の石が鎮座するという、大切なものや変わったものを寄せ集めてつくられたもののようです。特に目を引くのは、てっぺんにある茶色でまん丸の石。この石の正体は、「ノジュール」または「コンクリーション」といって、三崎地区の地層の中にしばしば入っている硬く丸い石の塊です。では、なぜノジュールがこのようにまつられているのでしょうか？大正9年の洪水のときに洗い出されて流れてきたのか、あるいは堤防工事の時に掘り出されたのか。今のところ真相はわかりません（由来を知っている方がいればぜひ教えてください）。けれど、五輪塔や狛犬と一緒にいるということは、それだけ地域の人たちにとっても不思議で、何か感じるものがある石だということなのでしょう。実際ここ以外にも、五輪塔の一番上につかっているものなど、ちゃっかり鎮座しているノジュールはいくつかあります。私はこのように大切にまつられているノジュールを、親しみを込めて「ノジュール様」と呼んでいます。みなさんもノジュール様に会いに行ってみませんか？

(今井 悟・ジオパーク専門員)



レポート

6/22 開催
自然との付き合い方
を考える



ポスター発表の様子

当日は、地域で私設研究所を構え、研究している方や、近隣ジオパークの専門員、そして土佐清水をフィールドに研究をしている方など、たくさんの研究者においでいただき、講話や、ポスター形式で発表していただきました。研究者のみなさんから語られるお話は、研究者ならではの独自の視点が盛り込まれていました。当たり前のことですが、自分が見ている世界が世界の全てではないということ、人の数だけ見える世界が違うということ。また、それは人間だけの視点ではないこと。そんなことを改めて考えさせられる時間となりました。

平成30年度学術研究
支援事業の紹介(全5回)

とさしみずの研究

第4回

四万十海底谷における栄養塩供給と基礎生産および動植物プランクトンの分布に関する研究

研究した人

高知大学総合研究センター海洋生物研究教育施設
准教授 齊藤 知己さん

海水中の栄養塩（窒素を含む硫酸塩など）は植物プランクトンの増殖に必須で、それを食べる動物たちを根元から支えています。よって、我々は土佐湾の深層から表層への栄養塩供給を担う湧昇について調べています。中でも四万十海底谷での湧昇発生機構の一因として黒潮の離接岸に着目し、足摺岬から黒潮流軸までの距離を見計らって調査の予定を立てています。調査には、船、海洋物理環境を測定する機器、プランクトンネット、そして、それらを操作できる人員が不可欠ですが、去年は悪天候に悩まされて日程の調整に難航しました。この調査は波高

2mを超すと難しくなります。重さ50kgを超える多筒採水器付きCTD（塩分・水温・水深計）センサーやネットを片道20分かけて海底谷内水深350m地点に下ろし、試料の採集や計測をしますが、潮が複雑で速い足摺沖ではその間に船が流されてしまうので、海上の風、潮流を考えてこれを下ろす位置を決める必要があります。難しい調査ですが、四万十海底谷は豊かな土佐湾の生産性の秘密を解く鍵を握っている場所です。困難にめげずに調査を遂行して成果をあげたいと思います。



土佐清水といったら美味しい魚！いろんなところへ行っただけで、魚はうちが一番！という方も多はず。では、なぜ土佐清水では美味しい魚が獲れるのか？今回の齊藤先生の研究は、その理由の一端を明らかにしてくれるもので、どうやら、足摺沖の谷間に秘密があるらしい。自然相手の研究は一筋縄にはいかないようですが、これから、さらなる秘密が明らかになるはず。先生、応援してます！



実はインスタやってます。@tosashimizugp

#土佐清水まちかど探検隊



ぐっちゃんこと森口専門員が、土佐清水の片隅で見つけた小さな発見を発信中！みなさんも一緒に探検しませんか？ハッシュタグ#土佐清水まちかど探検隊つけてあなたの発見をアップして共有しちゃいましょう。

※ぐっちゃんは生物屋のため生き物多めです。

発行

土佐清水ジオパーク推進協議会 〒787-0392 土佐清水市天神町11-2
TEL 82-1115 MAIL geopark@city.tosashimizu.lg.jp

推進協議会 HP



facebook

